

大田区自立支援協議会 第1回（仮）地域生活の視点部会議事録

文責：事務局

| | | | | |
|----------------|---|--------|--------|--------|
| (1) 会議の名称 | 大田区自立支援協議会 第1回（仮）地域生活の視点部会 | | | |
| (2) 開催日時 | 令和元年6月24日（月） 10：00～12：00 | | | |
| (3) 開催場所 | 障がい者総合サポートセンター 3階 集会室2 | | | |
| (4) 出席した委員、事務局 | 宮崎 渉 | 相原 美晃 | 青山 明子 | 大宮 謙一 |
| | 鶴田 雅英 | 宮嶋 祐紀子 | 山根 聖子 | 相澤 あゆみ |
| | 恵良 幸樹 | 榎 拓巳 | 小野 英次郎 | 棧敷 洋子 |
| | 島村 勝 | 清野 弘子 | 中野 真弓 | 新田 美和 |
| | 平井 有希子 | 山崎 訓子 | 山田 悠平 | |
| | 区事務局：福島係長、西澤、齋藤、親跡 | | | |
| (5) 内容・要旨 | <p>1 専門部会のみ委員の委嘱、自己紹介</p> <p>2 書記について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は初回のため事務局が担当。次回から輪番制とする。 <p>3 第1回合同全体部会の振り返り</p> <p>昨年度の経過と今年度の変更点について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会の構成が5部会から3部会となった。各部会で話し合う事項によっては共通のものがあ、関係機関や各ネットワーク等で検討できる体制もあるため、課題に対応した運営体制について検討した。 ・3部会体制になるにあたり、今年度の部会を始めるにあたりオリエンテーションとしてとして)を開催した。 ・5部会で検討してきた課題については、出された課題に漏れが無いように検討する部会や繋いでいくネットワーク等を整理し引き継いでいく形で進めていく。 <p>4 前年度から引き継ぐ課題についての確認</p> <p>(ア) 重症心身障がい児・者の地域生活の継続</p> <p>昨年度の地域移行・地域生活支援部会の身体障がいのワーキンググループでは、既存の訪問看護ステーションリストを改訂、医療的ケア者の実態把握を進めるためのアンケート実施に向けて「医療的ケア児・者支援関係機関会議」との連携が必要不可欠という結論に至った。</p> <p>(イ) 就労を目指す上で、18歳までに必要な準備と障害児サービスのつなぎ</p> <p>働く・働き続けるということから就労を目指す上で、障害児サービスを提供している事業者を始めこども部会と連携して検討される課題であったことを確認した。</p> <p>(ウ) WG発達支援マップの検証</p> <p>発達支援マップの活用方法として、どのように伝えていくか。実際に発達支援応援フェアなどの説明の場では活用が少なかった。利用する方の目線や立場に立って考えることが必要。</p> <p>(エ) WG就労定着支援の調査・分析</p> <p>昨年度、就労支援部会において就労定着支援の充実を検討する中で、就労定着支援の調査・分析にまでは至らなかった。今年度に引き継ぐ課題とした。</p> <p>5 今年度の検討課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員から今年度の検討課題について様々なご意見が出された。 | | | |

- ・今、このメンバーで課題とするものをあげるべきではないか。
- ・ワーキンググループは現場の声、困り感を出せる場所だと思う。日にちと時間が合えばいろいろなワーキンググループに出たい。
- ・ワーキンググループは実働部隊であり、専門部会では全体を協議する場だと考える。
- ・ワーキンググループは専門部会にどのように関わっていくのか。
- ・地域で暮らしていくというマクロな視点も大切であり、ミクロな視点がワーキンググループにあたるのか。今後、他の部会のワーキンググループと重なるものも出てくるのではないか。
- ・支援者の視点も大切だが、こどもの視点を伝えられる場が無い。こどもがどのように思っているかということは伝えていきたい。
- ・昨年度の部会でそれぞれ話されてきた課題がある。5部会から3部会になり、部会長の認識の違い等もあると思う。認識をそろえる必要があると思う。認識の整理を示す必要性があると思う。
- ・就労定着支援の調査・分析は行いたい。ひきこもりの若者支援についても検討されたい。
- ・ワーキンググループについてはテーマに応じて入りたい人が参加する形にすると様々なことができるのではないか。
- ・事業所だけでなく家族や当事者の視点からの課題の検討、ワーキンググループを中心に現場の声をひろうことは大切だと思う。
- ・課題を引き継ぐことの大切さと今年の進め方の確認が必要。今年取り組むものもあって良いのではないか。日々の業務でも相談のみで終わることはない。繋がること、繋がりができることに期待している。
- ・もっと別のワーキンググループもあって良いのではないか。例えば、地域生活の視点で取り組めるものがあるとよい。
- ・地域生活の視点ということを医療の立場からどのように関わることができるか考えていきたい。
- ・大田区で暮らすためにはどうしたらよいか。医療的ケアのある子どもは受け入れ先が無い。「留まる」、住み慣れた場所で暮らすためにはどうしたらよいか検討したい。
- ・実際に地域生活の場として、重度心身障がいの方の生活の場の課題をあげて、その課題をクリアするためにはどうしたら良いか話し合いができればと思う。
- ・障がい者施策推進プランに「障がい者が地域で自分らしく安心して暮らせるまちをつくります」とあるようにプランにあがっているものを切り口として考えるのはどうか。
- ・ワーキンググループは始められるところから始めて、後に追加しても良いのではないか。
- ・他部会のワーキンググループについてどのようなものがあるのか明確にしてほしい。

6 副部会長、編集委員の選出、決定について

- ・今年度の副部会長は鶴田委員にお願いする
- ・編集委員は作業部会で決定する

7 作業部会について

- ・設置することとする。
- ・作業部会において、ワーキンググループをどのように作るか、部会全体で話す議題を整理し、部会をどのように運営していくか検討する。
- ・部会の名称については作業部会までに各委員がそれぞれ（案）を考えてくる。
- ・作業部会は、「（仮）地域生活の視点部会」の全委員の参加のもと開催する。7月11日（木曜日）の10時から12時で行う。

次回、第2回（仮）「地域生活の視点」部会は

日時：令和元年7月26日（金曜日）10時から12時

場所：障がい者総合サポートセンター 集会室2